

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2770104848		
法人名	社会福祉法人 南の風		
事業所名	グループホームアル・ソーレ		
所在地	堺市堺区甲斐町西2丁1-15		
自己評価作成日	平成 30年 7月 19日	評価結果市町村受理日	平成 30年 9月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2770104848-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 30年 8月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあるその人らしさということが、どういう事かは永遠のテーマだとは思いますが、その人らしさを理解する努力を心掛け、アセスメントや普段の関わり、利用者・家族とのコミュニケーションの中での気付きを共有し、気持ちに寄り添える援助が出来ればと思っています。また、複合施設ならではの協力体制で、単独では困難な取り組みにも柔軟に対応でき、利用者・家族の楽しみと安心に繋がっていると感じています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

交通の便の良い、都心にある特別養護老人ホームやデイサービスを併設したグループホームです。各フロアの食堂やリビング、廊下は広く、居室は木目の洋室、障子や畳の和室があり、ゆったりした清潔で明るい空間です。ペランダには、草花や野菜が植えてあり、屋上にも菜園があります。屋上からの見晴らしは良く、市内の街並みや山々を眺めることができます。利用者は花火を楽しんだり、自然の風にあたり四季を感じることができます。管理者、主任、職員は、利用者を中心とした「その人らしさ」とは何かを常に考え、地域と繋がりを保ちながら、喫茶への外出、鍵をかける自由な暮らし、一人ひとりのペースに合わせたゆっくりとした時間や趣向を凝らした食事の提供、今できる力を引き出す質の高いケアを実践しています。また、「利用者にとって、家族に勝るものはない」と、誕生会や団らんができるフリースペースを設けており、利用者が家族と過ごせるように日帰り旅行、納涼祭など様々な行事を実施しています。ホームには、利用者と職員の笑い声が響き、利用者同士、楽しくお喋りして過ごしています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝い致します」という理念のもと、地域の協力を得て住み慣れた場所で、それぞれが安心して笑顔で過ごせる場所でありたいと取り組んでいます。	法人全体の理念「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝い致します」をもとに、グループホーム独自にケアの目標として「共に過ごす」「今、できること」を掲げています。また、月間の目標として、「熱中症予防」「体調管理」など、季節ごとに留意する点を申し送りで確認しながらケアを行っています。理念は、利用者や家族、地域住民が見えるところに掲示しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のふれあい喫茶・祭り・イベントへの参加。逆に地域からは施設行事への招待・ボランティアの協力と良い関係で助けて頂いています。又、近所の保育園とは季節の交流のほか、災害時の避難場所として協力連携、合同の避難訓練など。複合施設として、地域包括や居宅との協力で勉強会などの活動も一緒にしています	開所から15年が経過し、地域の中の施設として、交流が深まっています。利用者は、近隣の公園への散歩や買い物など通して、地域住民と日常的な関わりを持ち暮らしています。地域で行われている月2回のふれあい喫茶の常連客として、地域住民もホームからの参加を楽しみにしています。ホーム内で催されている作品展や祭りなどにも、地域からの参加があります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	堺市・堺区のグループホーム連絡会に所属し、その活動で、市や地域包括、保健センター、他事業者などを行う認知症の啓発活動などにも参加しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や地域包括との現状報告。特に防災関係の地域講習会等のガイダンスを頂いて参加することもあり。近所の家族も多く、情報交換の場となり日常生活の活動にも参考にさせて頂いています。	運営推進会議は、規定規約を作成し、守秘義務を明文化した上で、2か月に1回開催しています。会議では、家族や参加者と意見交換をしてサービスの向上に活かしています。ホームからは、利用者の状況やホームの行事、外出状況などケア提供の内容や取り組みを報告しています。地域包括支援センターの職員や民生委員からは、地域の情報提供や外出先などの情報も得ています。できるだけ多くの人が参加できるように、あえて曜日や時間を変則にするなど、工夫をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	見守りねつとの協力等は参加。日頃から連絡を密にというわけではないが、法人全体での情報交換として取り組んでいる。	市の担当者とは、日頃から連携が取れています。市の主催するグループホーム連絡協議会などで、各ホームが情報交換しています。SNSによる、市内の空き情報の共有も行われています。地域包括支援センターと協力して、認知症サポーターの養成や認知症の啓発活動にも取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の勉強会を通じて、知識と方針など含めてその都度意識の統一を図り、職員一人一人が自覚を持って取り組んでいます。	身体拘束をしないケアを実践しています。マニュアルを整備し、法人全体の勉強会も実施しています。管理者、職員は、身体拘束をしないケアの重要性を認識しており、各フロアのホームの入り口、エレベーターなども、施錠やナンバーロックはしておらず、ドアの開閉時に、音が鳴るような工夫をして対応しています。居室からベランダへも自由に出入りできる環境を整えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の勉強会を通じて知識を深め利用者が穏やかに安定した生活を送って頂けるかを考え取り組んでいます。家族の想いが汲み取れるよう、気軽に相談しやすい雰囲気を中心掛けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在もそれぞれのニーズで成年後見制度を利用されています。家族からの相談も含め、NPO団体からの協力を頂き、指導・助言をいただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項・契約書などの書類は、見学や面接時に事前にお渡しし、当日は再度説明と質疑応答の機会を持ち、具体的に説明する事で理解と協力をお願いしています。家族・利用者の不安を少しでも軽減できるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で、どの職員にでも気軽に相談して頂けるように、面会時には近況報告も兼ねてお声掛けさせていただき気持ちを伝えやすい雰囲気作りに心掛けています。	職員は家族の面会時に、積極的に声かけを行い、利用者の状況を説明して意見や要望を聞くよう努めています。家族と利用者、職員との交流の場づくりとして、クリスマス会や納涼祭、バイキングなどを催し、一緒にお喋りを楽しむこともあります。ホームの情報として「ぽっかぽか便り」や「グループホーム便り」で行事の様子を伝えています。また、受け持ち担当者を決めており、一人ひとりの暮らしぶりや状況を家族に知ってもらえるよう「利用者連絡帳」を作成し、毎月のお便りに同封しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議では、事前に議題に挙げたい事柄を集めてまとめておき、時間を有効活用出来る様に、又業務などで参加できない職員の意見も挙げる事ができるように準備し取り組んでいます。申し送りの場を活用し、急な事態でも相談対応出来る様に努めて反映させています。	職員は毎月の職員会議で自由に意見交換をしています。施設長は、毎年職員の面談を実施しており、意向や意見を聞く機会にしています。主任は、職員の提案や意見を取り入れながら、施設長に相談し、ホームの運営に反映させています。管理者、主任、各フロアの担当者の風通しは良く、利用者にとって、より良い生活を目指して、同じ目線で支援が行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力や経験に合わせた役割分担や、研修への参加。施設内の事例発表会等。の取り組みを行っています。又職員の自己評価なども参考に、普段からのコミュニケーションを通じて、働きやすい環境づくりを心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会委員会を中心に、年間計画を立て、スキルアップに取り組んでいます。又、資格取得に対してそれぞれの意欲に施設全体でサポートできるよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の活動や、協議会への加入などで他施設との情報交換や取り組みを聞かせて頂き、サービスの向上に役立てています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	状況に応じてショートステイから利用して頂いたり、家族には出来る限り不安に対して寄り添っていただく様に協力をお願いしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関しては契約書や重要事項またその他の書類を事前にお渡しする事で、来設されなかった家族にも確認して頂けるように努め、家族みんなで準備できるように、それぞれの状況にあった入所準備の仕方や、利用者への寄り添い方をそのつど提案させていただいています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それぞれのニーズの把握に努め、今までのなじみの関係を大切に可能な限り今までの過ごし方に大きな変化がない様に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという事を常に心がけ、日々の生活の中でも自己選択・自己決定の機会を多く持つように心掛け、興味を持って頂けるような活動を工夫するよう心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係性を大切に季節行事や、イベントへの参加協力を促し、一緒に楽しんで過ごして頂ける場所にと努めています。又、食事介助などでは、無理のない範囲で通って、手伝って下さる家族もいて、入居後も介護に参加しやすい雰囲気作りにも心がけています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院、美容室、お店など、家族の協力を頂きながら、今できる事を大切にということを心掛けています。	地域の公園への散歩や買い物、行きつけの美容院など、馴染みの場所に日常的に出かけています。また、家族の面会も自由です。馴染みの関係づくりとして、定期的に地域の喫茶に出かけており、そこでの新たな関係もできました。また、「利用者にとっては、家族との繋がりがなにより大切である」との考えのもと、7階のフリースペースを家族や馴染みの人との交流の場として開放しています。家族団らんの誕生会なども催されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの状態に合わせて、職員が間に入ったり座席を工夫したり作業・活動を選んだりしながら自然な関わりができるように取り組んでいます。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居したことでサービスが終了しても、面会や、他部署への用事で来設した際に立ち寄ってくれるといった交流は継続して下さっています。又、見かけたタイミングなどでは差し障りない程度で近況を伝えたりしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族から頂いたアセスメントを都度振り返り、日々の生活の中での気づきや、利用者の想いに寄り添う努力をしています。	入居前に家族の協力を得て、これまでの自宅での過ごし方や趣味、習慣、どこでどのように暮らしたいかなど、一人ひとりの思いや希望を聴取して、ケースファイルにまとめています。また、日常の会話や表情の中から、利用者の思いを把握し、どのような暮らしを望むのか、どのようなことをしたいかも聞き取るよう努め、定期的にカンファレンスを実施し、ケアに反映させています。ベランダの水まきやカラオケなど、一人ひとりが主人公になれる場面づくりにも取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントの一部をお渡しし、なじみや昔の好み等、家族間で相談しながら記入していただいており、その際には、何故そのような情報を集めるのか、どのように活用するのか等説明を加えて、理解して頂けるようお願いしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中での気づきを情報共有しながら、利用者の状態把握に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前の情報収集をまとめ、家族にもその都度確認し、思いや意向を汲み取りながら計画作成に反映させるように努めています。 利用者の様子や変化、それに対する対応は面会時のコミュニケーションと毎月の手紙で報告相談しています。急ぎの場合はその都度電話連絡。	入居時には、家族の協力を得て、生活習慣や好きなこと、嫌いなことなど情報を整理し、介護計画に反映しています。介護計画の見直しは、毎月のモニタリングと定期的にカンファレンスを開催して、実施しています。家族の面会時には、職員から積極的に声をかけ、様子を伝えるとともに、希望を把握しています。	介護計画は丁寧に作成されており、カンファレンスも実施されていますが、計画に沿った支援と日々の記録との繋がりが、分かりにくいものとなっています。入居時のフェースシートへ新たな情報を追加し、日々の記録についても計画に沿った実践の様子を記載してはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中で、みられる変化に注意し、言動、行動、体調の変化など、記録に残し共有しながら必要な対応が素早く出来る様に心がけています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設ならではの協力体制と、法人・母体等の関係施設との協力で、必要に応じての柔軟な対応が出来る様に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のニーズに合わせて援助しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療面でのサポート体制を家族と相談・確認を行い、受診では家族の協力も仰ぎながら、かかりつけ医（主治医）・専門科医との連携と情報の共有に努めています。	かかりつけ医は、利用者や家族の希望に応じて決定しています。従来のかかりつけ医への受診は、家族の協力も得ながら行っています。関係医療機関との連携も図れており、併設施設に看護師、医師がいることから、緊急時や夜間など、何かあれば相談できる体制が整っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が健康チェック、必要に応じた処置や確認を医師との連携のもと、行っている。専門的な立場からの意見と、生活の場でのサポートとして良いディスカッションが出来、介護職員も安心して相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	こまめな面会と、看護、医師に状態を確認しながら退院のめどがたてば、相談員・看護・医師・リハビリスタッフ等必要な情報を整理し、早期に退院できるように受け入れ態勢を整えるよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取りに関する指針を説明。同意書を頂いている。実際に状態が必要と感ずるようになれば、家族・医療・栄養などと連携し、援助の方向性をいくつか提案。意向の確認を行い、考えられるリスクや状況等その都度相談しながら、方向性の変更に対しても柔軟に対応できるようにより良い方向で支援できるように努めています。	重度化や終末期に向けては、利用者、家族の希望に応じた支援をしています。重度化した場合の対応として「看取りに関する指針」を作成し、説明し、同意書も得ています。併設施設もあり、グループホームとしての看取りは積極的に行ってはいませんが、これまでに、生活の延長として数名の看取りにかかわりました。状態の変化があった場合には、利用者や家族の意思確認を行ない、その都度話し合いを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や講習で心肺蘇生法やAEDの使用方法的確認。急変時のマニュアル確認をその都度行い、実際の対応に備えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設で災害対策委員会を設置、マニュアルの追加、備蓄の確認、訓練の計画を行っています。火災に関しては年中想定・夜間想定を取り入れた計画としている。又停電時の確認や市の危機管理室の情報をもとに地震に対してなどの対策を確認。更新している。 運営推進会議でも地域の取り組み等雑談レベルではあるが話しながら、施設の取り組みを伝えている。	火災や津波などの災害時のマニュアルがあり、年に2回、利用者も交えて、併設施設と合同で避難訓練を実施しています。そのうち、1回は消防署の指導を受け、具体的な火災発生場所を想定した訓練が実施されています。5・6階がホームの居住場所ですが、併設施設があるため、相互の協力体制が整っています。また、消火器やスプリンクラーを設置し、各居室からのベランダ、屋上への回避場所もあり、避難経路も確保されています。備蓄についても、水や食料、排泄・寒さ対策用品などが完備され、計画的に取り組まれています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴など、それぞれの状態に配慮しながら、希望に応じて同姓介助を行い、対応。サービスマナー・個人情報保護等の勉強会やマニュアルの確認で意識の統一に努めています。	管理者、職員は、常に言葉遣いに注意を払い、ケアを実践しています。「自立・尊厳」を理念の基本的な考えとして、日常生活場面でも、できるだけ本人のペースが守られる様に意識しています。食事の場面でも利用者一人ひとりの食事のペースに合わせて、支援が行われています。勉強会も定期的に行われ「入浴時のプライバシーの保護」「排泄時のプライバシーの保護」と個別の対応方法についても、明文化しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイムの飲み物や、おやつバイキングなど生活のちょっとした場面でも自己選択・自己決定出来る様に意識して取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の予定を固めず、その日その時の職員の人数、利用者の体調、天候等臨機応変に出来る様心がけています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出かけ、行事等には違った気分で参加できるように、化粧や浴衣の支援、おしゃれ出来る様に援助しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好・アレルギー・食事形態の確認を相談し、朝はパンかメニュー通りにするかの相談。複合施設での施設厨房ならではの種類の豊富さで状態に応じた援助が来ています。又、家事動作も片付け中心に利用者の意欲に応じて参加して頂いています。	ホームでの生活に「食事は楽しみとして重要である」と考えており、様々な趣向を凝らした食事が提供されています。毎月1日は「赤飯の日」で鯛と共にメニューに彩を添え、月の移り変わりを意識できるようにしています。副食は併設施設で調理されたものを盛り付け、提供していますが、ご飯はホーム内で炊いています。厨房での調理は栄養管理されており、利用者に合わせた食事形態で提供し、利用者は様々な季節の食を楽しむことができます。誕生月には、利用者の好みに応じて、個別外食も実施しています。ホーム内の屋上やベランダで苺や芋、トマト、キュウリなどを栽培し、利用者と共に収穫し、食材として使用しています。朝食は、希望に応じてパンを食している人もいます。また、苦手な食材がある場合は、変更することも可能です。おやつ作りは、利用者と共に楽しんでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がたてた献立のもと、摂取量の確認を行い、栄養・家族・医療との連携で必要な栄養補助や好み・食欲に対してや健康状態に対しての援助を行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシやガーゼなどの道具を使い分け、利用者に応じた援助を行っています。必要に応じてと希望者は毎週金曜日の歯科往診時に口腔チェックと必要な治療を行っている。その際にそれぞれに応じたアドバイスをいただいています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定期と随時、必要な排泄用品で援助を行い、状況を記録。可能な限りトイレに座る事を大切に援助しています。	排泄のタイミングは利用者の様子から察して、普段はおむつを使用している利用者であっても、できるだけトイレに誘導しています。特に、排便についてはトイレでできるよう支援しています。排泄介助を拒否する利用者もありますが、「ご自身でされること」を尊重し、家族に状況を伝えながら、パッドをこまめに渡して、使用済みのパッドや下着を早めに回収するよう心がけています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態把握に努め、情報を整理し医師に相談し指示やアドバイスを頂く。又家族・栄養課とも協力し、ラブレやオリゴ糖・等も活用。様子を見ています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず、毎日でも、午前でも午後でも臨機応変に入れる準備があります。拒否されることが多い中でも、3日に1回は必ず。を目標に、午前ダメなら午後から、今日がダメなら明日とといったように援助しています。	浴槽の出入りが難しい利用者でも、職員二人で介助をしたり、入浴を嫌がる方にも声をかけるタイミングを工夫したり、その日に決まった利用者に入ってもらうのではなく、利用者の希望や状況をその時々で判断しながら対応しています。また、季節に応じて柚子湯や菖蒲湯なども用意し、入浴を楽しんでもらう機会にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない時は、共有スペースでお茶しながら過ごして頂いています。人の気配があると安心できるなら共用部分に用意してあるベッドで寝る時もあり。落ち着いたら自室に帰る等。それぞれのペースで過ごして頂いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療用のファイルに内容の一覧と処方箋のシールをまとめており、お薬手帳の役割も備えています。指示や変更も申し送り確認。服薬確認表の活用で、服薬漏れの内容に注意。問題が発生したときには医師に確認。早期対応に努めています。又、嚥下や理解の問題で服薬しづらくなれば医師・薬剤師とも相談し薬の形状や種類の工夫等の協力も得ています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	部活動という表現を使い園芸や工作、カラオケ[合唱]など秋の作品展示に向けて、又はクリスマス会での発表に向けてといったように目標を設定し張り合いが持てるように取り組んでいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護度が重度化していく中で、利用者ごとに楽しめる内容がことになっているが、近所の散歩からくるまでのドライブ。年2回の家族も参加できる施設全体で参加を募るバスツアー(旅行会社との企画・リフト付きバスを活用)と様々なパターンを用意出来る様に支援している。	バスツアーで神戸へ行き、クルージングを楽しんだり、近くの公園へのお花見、近隣の川沿いで催される鯉のぼりを見に行くなど、利用者が季節を感じたり、家族と過ごす時間を支援しています。また、遠方への外出が難しくなっている利用者には、野菜を育てているベランダに日常的に出てもらい草花の世話をするなど、外の空気を感ずる時間を大切にしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解のもと、自己と家族責任のもとお金を手元に持っている人も多い。基本必要なものはほぼ家族が持参。手元のお金は減ると寂しく被害妄想へと移る事が多い為、居室の手の届かないところに家族が管理して外出時に持って行ける小遣い袋を置いて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	1階の公衆電話は自由に使用。 遠方の家族などには職員の用事のついでに利用者本人に代わる事も。希望者は携帯の用意もある。手紙を書くというのが難しい人は写真画像を添えて代筆したり工夫しています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常の掃除に加えて、木・金曜日は衛生日とし、ごみ箱類の洗浄や、キッチンや加湿器、その他の消毒日に充てている。室温、換気にも注意している。又壁などには利用者と職員が協力して作った季節の飾りがあり。季節ごとにそろそろ変えないとね。何にする？など楽しみながら取り組んでいます。	食堂とリビングは、全窓のベランダに面したフロアの一角にあり、居室からリビングに行く廊下も含めて、ゆったりとした広さがあります。また、廊下やリビングには、ソファや椅子だけでなく、ダンスやぬいぐるみが置かれていたり、皆で作った季節の壁飾りが飾られています。ベランダや中庭からの自然な光も感じられるリビングでは、食事を準備する音や匂いがし、お喋りをする声などが適度に聞こえ、生活の温かみを感じられる共有空間となっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが落ち着く、好きな場所で過ごせるように椅子やソファを配置。7階にも空間があり、施設の取り組みとして遠方の親せきなど大勢のお客様にも対応できるよう、おもてなしの食事会企画であれば食事の準備や出前の段取り、テーブルの配置など、軽いお茶であればその準備を自分の家でもてなすように支援できればと考えています(要予約)		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	引っ越し時の居室のものは家族に任せています。入居時には、使い慣れた物を、なじみのある物をと、その理由と共に説明しています。	洋室と和室があり、利用者それぞれが持ち込んだ家具(タンスや椅子、ソファ等)や寝具が置かれ、なかには好みに応じてフローリングにカーペットを敷いている部屋もあります。また、部屋の中には思い出の写真が飾られていたり、三味線を置いている方もおられ、親子で時折弾いて楽しむ時間を過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫次第で出来る事、という事を常に考え、説明書きを加えたり、つりさげの表示を作ったり、リスク管理では先回りして環境整備するなど心掛けています。		